

令和元年度 第1学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業・学力調査等についての分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が平仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。 8割以上の児童は教科書をすらすら音読することができる。大きな声ではっきりと音読できる児童は7割程度。 9割の児童は、促音や拗音を正しく理解しているが、文章の中で正しく使えている児童は7割程度で、更なる習熟が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに児童と学習計画を確かめ、一人一人が、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 常に皆に聞こえる声で発言することを意識させる。聞こえなかった時はやり直しをし、できている時は認めて褒めるようにする。 感想や身の回りの出来事を文章に表す機会を増やすことで、正しい表記で書く指導を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に応じて、ペアなどで話し合いをする活動を取り入れることで、他の児童と学び合いながら学習できるよう工夫する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算、ひき算の計算は、9割の児童が計算の意味を理解して、正しく計算できている。 文章を読んで正しく立式できる児童は8割程度で、更なる習熟が必要である。 10までの数については、ほぼ全員が構成を理解しているが、10より大きな数になると、2割程度の児童が仕組みや構成の理解が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、これまでの学習で分かっていることを確認する。また、既習事項を使って考えることを習慣付ける。 問題を解く際は、図、ブロック、式等、様々な方法で考えさせる。 ブロックなどの具体物を児童がすすんで使うことで、理解の定着を図るようにする。10のまとまりを常に意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が成就感を味わえるように、問題数を調整するなど、個人差に対応できるよう工夫する。 たし算、ひき算が身に付くように家庭学習等で適宜復習を行う。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ほぼすべての児童が、学校探検をしたり、アサガオを育てたりすることに関心をもって意欲的に取り組んでいる。見付けたことを絵で表現することに課題がある児童が1割、言葉で表現することに課題がある児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いや願いを引き出すことができるように、児童と単元の計画を確認する。 話型を示したり、グループや全員で話し合ったりすることで、言葉で表現することに慣れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで気付いたことなどを伝え合う活動を取り入れたりと、体験したことを発表する場を設定したりし、表現する力の基礎を養う。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 9割の児童が、拍の流れにのってリズム打ったり歌ったり演奏したりすることができる。 楽器の基本的な奏法の定着や、音楽への興味・関心に課題のある児童が1割程度見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と互いに奏法を確認し合う活動や個別指導を充実させ、演奏するための姿勢や奏法を定着させる。 個々に練習する音や大きな音を嫌がる児童には、無理強いしない。必ずしも音楽や楽器演奏が嫌いというわけではないので、能動的に取り組むきっかけを見付け、指導・助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した歌を中心に、音楽会の演目に取り入れることで、常時活動において歌を歌い、音楽の日常化を図る。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 9割程度の児童が、感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表すことができる。 はさみやのりなどの道具の使い方を十分に習得していない児童が、1～2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士で話し合いをさせたり、自分の経験を思い出させたりすることで、作品の構想等を練るための幅を広げることができるようにする。 課題に入る前に、練習教材を用意し、あらかじめ練習できるようにする。また、教師が実際にやって見せたり、ICT機器を活用し模範動画を見せたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具等の使い方に関しては、図工の時間だけでなく日常の学習の中でも取り入れ、使用する頻度を増やし、くり返し経験をさせるようにする。

令和元年度 第1学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・整列や準備運動などの基本的な集団行動は、8割以上の児童がきちんと行うことができる。 ・折り返しリレーや鬼遊びなどのルールを理解することに課題のある児童が1割程度いる。 ・運動経験の差が大きく、特にボールを使った運動では投げ方がぎこちない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においても、ルールを守って友達と仲よく活動できるように、始める前にルールを確認する。また授業の終わりに本時を振り返る時間を設ける。 ・ペアやグループでの学習を多く取り入れ、友達のよさに目を向けさせ、学び合いの素地を作ることができるようにする。 ・児童が1時間ごとのめあてを明確に捉えることができるよう、例えば「利き手と反対の足を踏み出して投げる」「大きく腕を振る」など、具体的な言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が日常から体育的な経験をしていくことができよう、中休みや昼休みにクラス遊びを取り入れ、遊び方やルールの工夫について考えられる機会を増やしていくようにする。
--------	---	--	--